

## 地域自立支援協議会 会議要録

会議名:令和5年度第3回白井市地域自立支援協議会全体会

日時:令和6年3月21日(木)

場所:団体活動室1・2・3

出席者:林会長、鈴木(一)副会長、飯ヶ谷委員、大網委員、高橋(祐)委員、高橋(奈)委員、中山委員代理吉田氏、横尾委員、古市委員、染谷委員、村田委員、川上委員、村松委員、上野委員(14名)(以下、敬称略)  
事務局(鈴木(智)課長、山本、伊藤、川合、久保田)

欠席者:高橋(里)委員、森田委員、石川委員、橋本委員、熊崎委員、秋本委員、松島委員

傍聴者:1名

資料:会議次第

資料1 各部会等活動報告

資料2 医療的ケア児者に伴う日常生活用具の充実に関する提言  
障がい者就労に伴う公共交通の充実に関する提言

資料3 白井市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画 関係

資料4 調査票(トピックス、次年度以降の協議内容)

### 議題:

- (1)各部会の活動報告 資料1
- (2)提言書等について 資料2  
(公共交通:就労支援部会、日常生活用具:生活支援部会)
- (3)障害福祉計画の策定について 資料3
- (4)委員が感じている、障がい福祉に関する課題やトピックス  
次年度以降の地域自立支援協議会全体会で取り扱いたい内容 資料4
- (5)その他 報告事項  
・来年度の予定(委嘱替え等)

### 内容:

#### 議題(1)各部会の活動報告 資料1

各部部长より資料に沿って説明

(生活支援部会 相談WG、こどもWG 質疑・意見)

村田:相談関係のパンフは見やすくなった。相談支援専門員不足については取り組んでいただきたい。

林:各種委託による相談の種類が多く、内容が被ってしまっているとも聞く。それで計画相談に人がまわらないこともあるとか。相談員はどれくらい人数が足りていない等の議論はあったか。

飯ヶ谷:人数までは詰めていない。

林:実務経験10年、国家資格有なら5年など、要件が厳しい業種。市全体で協議していく必要があると考える。

(就労部会 質疑・意見)

飯ヶ谷:就労準備性が整っていない人がA型、介護が必要な人がB型等、適切ではない場合が多いと聞く。

高橋祐:サービスに合わない利用者がいるということは、部会では話題にはならなかった。

鈴木一：就労が継続できず、A型が良いのではないかと助言を受けて来るケースが有る。A型は選べるほど事業所はなく、ある程度働けることを受入れの前提としている。職業適性などを見るためにも、就労移行の利用が現実的である場合もある。ある程度分かっている人が相談に乗るとミスマッチが防げるのではないかと。

林：現状、市内の就労継続支援B型は空きがない状況か。

伊藤：市内のB型についてはいずれの事業所も空きがある現状。

高橋祐：みのりも募集中である。

## 議題(2) 提言書等について

飯ヶ谷：医療的ケア児の日用具については、避難できる場所まで行くことが難しく、自宅に準備をしたほうが良いということから提言を出そうという流れだった。

林：公共交通について。どうなったらよいという目標はあるか。また、具体的になる可能性。

高橋祐：理想は循環バスの本数が増えること。実際には利用者が少なく、厳しいとも言われている。工業団地と駅を結ぶ誰が乗っても良いようなバスが出せ、そこに市から補助金が出るなどするとよい。金のかかることで簡単にはいかないと思う。

鈴木智：市の循環バスのルートについては定期的に見直しを行っている。地域交通網の協議を別会議で行っている。地域全体から様々な要望が来て、それらを実情と合わせ協議していくため、実現を約束できるものではないが、障がい分野の協議会としてニーズがあるという意見を出していくことは意味のあることだと思っている。提言書をいただいて、担当課にお渡しする。

林：おそらく今回が4回目。減便になった時に初めて出た。今後は、増便したら障がい者の方々が雇用にどれくらいつながるかや、バス利用者がこれくらい増える、というような内容を盛り込めるとよりよさそう。

案のとおり市へ提出することについて、承認多数で承認

## 議題(3) 障害福祉計画の策定について

飯ヶ谷：行動援護が増減なしになっているが根拠は。感覚的には増えないはずがないと思う。

山本：過去3年の実績から算出。

林：実績で増えていなくても、必要であれば増やしたほうが良いという議論もあってもよかったかもしれない。

林：こども関係、こども全体の人数が減っているのに、障がい児への支援は増えている。それぞれの割合は。

山本：割合までは把握が無い。

飯ヶ谷：成年後見の報酬は、白井市は充実しているように思う。件数の増減なしの理由は。

伊藤：実績から算出。後見人の実数はおそらく増えている。ただし、施設入所の方など、お金が貯まって報酬助成の対象から外れる年もあったりして、件数としては増減なしとしている。

鈴木智：報酬助成は、市長申立以外のケースも白井市は実施している。早い時期から白井市は実施していたが、他市もそうってきている。後見人がついたことでしっかりと金銭管理ができてお金が貯まり、自分の財産から報酬を支払うことができる人もいて、このような件数となっている。

吉田：医ケア児のニーズ高まっている。次期計画には「(うち医ケア児何名)」等の記載があると良い。

鈴木智：次期計画で検討する。

林：保育課が協議に入ったほうが良い。インクルーシブ保育の内容なども知りたい。保育所等訪問をやっていた

だいて発達センターも把握はしているだろうが、保育課も頑張っていて、障がい児は、私立の保育園では受け入れが断られることが多く、おそらく公立の保育園で障がい児を受けてくれている。加配が頑張るということは超えてしまっているのではないかと感じる。

伊藤：来年度、部会の協力者か委員として委嘱かを検討する。

#### **議題(4) 次年度以降の地域自立支援協議会全体会で取り扱いたい内容**

伊藤：資料に基づき説明

飯ヶ谷：毎日空いている地域活動支援センターが精神障がいの人には必要だと思われる。気軽に行ける、行きたくなったら行ける場所。自立支援協議会は限定的なのでワーキング等で話合えればと思う。

林：協議会で話すべき内容と、市から説明等を行う内容を分けてもよい。バイタルリンクは、フラットもまだ導入していないが、協議会で話すよりは、市から再度個別に事業所に説明するほうが効果的ではないか。地活についても今後事業を実施できそうな事業所と市と話すのも良いように思う。

#### **その他**

林会長より：

協議会に関わりだしたころに比べて、市全体の福祉が格段に向上していると思う。この3年間でもそれを感じた。任期はここで終了だが、今後につなげたい。

鈴木課長より：

自身が着任した令和3年度、感染症により文書開催など活動ができない状況であっても、熱心にご意見をいただいた。医療的ケア児、にも包括の協議の場なども作っていただけた。各部会等も皆様積極的に参加いただき、令和7年度から作る基幹についても意見をいただいた。協力に感謝。

以上